



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年1月30日

上場会社名 サンワテクノ株式会社

上場取引所

東

コード番号 8137 URL <https://www.sunwa.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松尾 晶広

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員 管理本部長 (氏名) 的場 孝成 TEL 03-5202-4011

配当支払開始予定日 —

決算補足説明資料作成の有無：有

決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	105,018	2.6	2,344	6.7	2,974	19.7	2,058	12.3
2025年3月期第3四半期	102,333	△20.1	2,196	△53.4	2,484	△49.5	1,833	△53.1

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 2,370百万円 (248.5%) 2025年3月期第3四半期 680百万円 (△86.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	134.38	—
2025年3月期第3四半期	120.98	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期第3四半期	96,906	50,772	52.1
2025年3月期	93,078	49,112	52.8

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 50,495百万円 2025年3月期 49,112百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	50.00	—	70.00	120.00
2026年3月期	—	60.00	—		
2026年3月期（予想）				60.00	120.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	150,000	7.5	3,700	5.5	4,500	17.9	3,000	22.8	195.82

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規 3社 (社名) 株式会社エムテック、株式会社アレックスエンジニアリング及びSUN-WA  
TECHNOS(UK) Connect Solutions Ltd.

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (連結範囲の重要な変更に関する注記)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更        | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| ④ 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期3Q	16,044,000株	2025年3月期	16,044,000株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	488,901株	2025年3月期	864,164株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年3月期3Q	15,320,057株	2025年3月期3Q	15,157,131株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：有 (任意)

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

決算発表補足資料はTDnetで同日開示するとともに、当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書 .....	5
四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(連結範囲の重要な変更に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記) .....	7
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	7
(セグメント情報等の注記) .....	8
3. 補足情報 .....	9
(1) 仕入、受注及び販売の状況 .....	9
公認会計士又は監査法人による期中レビュー報告書 .....	10

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、インバウンド需要の拡大や設備投資の持ち直しを背景に、緩やかな回復が続いております。サービス関連消費が下支えとなる一方、物価高や円安の影響による生活コストの上昇が個人消費の重石となっており、景気の先行きについては引き続き不透明な状況となっております。

世界経済におきましては、通商政策を巡る不透明感や地政学的リスクの継続など不確実性の高い状況が続いておりますが、生成A Iの普及やクラウドサービスの拡大を背景としたデータセンター投資、A I関連半導体や電子部品への需要は世界的に高水準で推移しており、関連分野では引き続き設備投資が行われております。

当社グループが関連する産業用エレクトロニクス・メカトロニクス分野におきましては、在庫調整や投資抑制が一巡しつつあり、一部の業界では国内受注に持ち直しの動きが見られております。また、人手不足や生産性向上ニーズを背景とした自動化・省人化関連投資、A Iの普及に伴う半導体業界への投資増加は今後も構造的な需要として拡大が期待されます。

このような環境の中で当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,050億18百万円（前年同期比2.6%増）、営業利益23億44百万円（前年同期比6.7%増）、経常利益29億74百万円（前年同期比19.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益20億58百万円（前年同期比12.3%増）となりました。

部門別の業績は次のとおりであります。

#### [電機部門]

電機部門では、マウンター業界向けの電機品の販売が増加いたしました。半導体製造装置業界向けの電機品、太陽光関連業界向けの電機品の販売が減少いたしました。この結果、当部門の売上高は193億36百万円（前年同期比9.5%減）となりました。

#### [電子部門]

電子部門では、自動車関連業界向けの電子部品、社会インフラ業界向けの液晶及びF A業界向けの電子部品の販売が増加いたしました。この結果、当部門の売上高は778億55百万円（前年同期比7.3%増）となりました。

#### [機械部門]

機械部門では、半導体製造装置関連業界向けの設備機器の販売が減少いたしました。この結果、当部門の売上高は78億25百万円（前年同期比7.2%減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。なお、売上高については、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めた売上高で表示しております。

#### ① 日本

マウンター業界向けの電機品、自動車関連業界向け及びF A業界向けの電子部品の販売が増加いたしました。この結果、売上高808億81百万円（前年同期比8.4%増）、営業利益15億73百万円（前年同期比11.3%増）となりました。

#### ② アジア

アジア地域では、F A業界向けの電子部品の販売が増加いたしました。太陽光関連業界向けの電機品の販売が減少いたしました。この結果、売上高336億52百万円（前年同期比1.7%減）、営業利益7億48百万円（前年同期比6.0%増）となりました。

#### ③ 欧米

欧米では、自動車関連業界向けの設備機器の販売が増加いたしました。F A業界向けの電子部品及び生活関連業界向けの産業用ロボットの販売が減少いたしました。この結果、売上高43億91百万円（前年同期比9.2%減）、営業損失57百万円（前年同期は営業利益26百万円）となりました。

#### ④ その他

売上高は6億28百万円（前年同期比7.5%増）、営業利益48百万円（前年同期は営業損失0百万円）となりました。

## (2) 当四半期の財政状態の概況

## (資産)

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は、969億6百万円となり前連結会計年度末に比べ38億27百万円増加しました。現金及び預金、投資有価証券(投資その他の資産)の増加が主な要因であります。

## (負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債合計は、461億33百万円となり前連結会計年度末に比べ21億67百万円増加しました。支払手形及び買掛金、電子記録債務の増加が主な要因であります。

## (純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、507億72百万円となり前連結会計年度末に比べ16億59百万円増加しました。その他有価証券評価差額金の増加が主な要因であります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、2025年5月9日に公表いたしました2025年度の連結業績予想につきまして、最新の業績動向及び市場環境を踏まえ、下記のとおり修正いたします。

当社グループの関連しております産業用エレクトロニクス・メカトロニクス業界におきましては、足元では国内を中心に需要の回復が見られるものの、販売は当初の計画を下回る見込みです。一方で、収益性を意識した取り組みや経費の有効活用を継続したことにより、各段階利益は当初の計画を上回る見込みです。

当第3四半期累計期間実績及び昨今の業績動向を踏まえ、通期連結業績予想について下記のとおり修正いたします。

2026年3月期通期連結業績予想数値の修正 (2025年4月1日～2026年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株式に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 155,000	百万円 3,500	百万円 3,760	百万円 2,610	円 銭 171.68
今回修正予想 (B)	150,000	3,700	4,500	3,000	195.82
増減額 (B - A)	△5,000	200	740	390	—
増減率 (%)	△3.2	5.7	19.7	14.9	—
(ご参考) 前期実績 (2025年3月期通期)	139,581	3,507	3,815	2,443	161.15

※本開示に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	23,371	25,063
受取手形、売掛金及び契約資産	36,091	33,149
電子記録債権	7,965	8,612
商品	12,953	12,828
仕掛品	2	21
その他	2,617	4,698
貸倒引当金	△125	△137
流動資産合計	82,875	84,235
固定資産		
有形固定資産	2,192	2,307
無形固定資産		
のれん	—	614
その他	153	147
無形固定資産合計	153	762
投資その他の資産	7,857	9,600
固定資産合計	10,203	12,670
資産合計	93,078	96,906
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,686	19,528
電子記録債務	11,368	12,721
短期借入金	5,447	4,848
未払法人税等	406	383
引当金	—	53
その他	3,224	3,381
流動負債合計	39,133	40,916
固定負債		
長期借入金	3,000	3,000
長期末払金	51	51
役員退職慰労引当金	152	61
退職給付に係る負債	588	615
その他	1,040	1,487
固定負債合計	4,832	5,216
負債合計	43,966	46,133
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,727	3,727
資本剰余金	3,618	3,924
利益剰余金	35,915	35,997
自己株式	△1,557	△880
株主資本合計	41,703	42,768
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,912	3,980
為替換算調整勘定	4,496	3,746
その他の包括利益累計額合計	7,409	7,726
非支配株主持分	—	277
純資産合計	49,112	50,772
負債純資産合計	93,078	96,906

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	102,333	105,018
売上原価	88,395	90,385
売上総利益	13,938	14,632
販売費及び一般管理費	11,741	12,288
営業利益	2,196	2,344
営業外収益		
受取利息	46	135
受取配当金	141	157
仕入割引	20	28
受取家賃	113	112
為替差益	—	84
その他	170	281
営業外収益合計	492	799
営業外費用		
支払利息	143	126
売上債権売却損	25	34
為替差損	24	—
その他	11	8
営業外費用合計	204	169
経常利益	2,484	2,974
特別利益		
投資有価証券売却益	174	—
負ののれん発生益	—	19
特別利益合計	174	19
税金等調整前四半期純利益	2,659	2,993
法人税等	825	941
四半期純利益	1,833	2,052
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	—	△6
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,833	2,058

## (四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	1,833	2,052
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,444	1,067
為替換算調整勘定	291	△750
その他の包括利益合計	△1,153	317
四半期包括利益	680	2,370
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	680	2,376
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△6



## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結範囲の重要な変更に関する注記)

中間連結会計期間において、株式会社エムテックの株式を取得したことにより、同社及び同社の完全子会社である株式会社アレックスエンジニアリングを連結の範囲に含めております。

当第3四半期連結会計期間において、HTK Europe Limitedの株式を取得したことにより、同社を連結の範囲に含めております。なお、子会社化に伴い、HTK Europe Limitedは、SUN-WA TECHNOS(UK)Connect Solutions Ltd.に商号変更しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

また、見積実効税率を使用できない場合は、税引前四半期純利益に一時差異に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額並びに負ののれん発生益は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	283百万円	272百万円
のれんの償却額	—	32
負ののれん発生益	—	19

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	日本	アジア	欧米	計				
売上高								
外部顧客への売上高	66,755	30,763	4,256	101,775	558	102,333	—	102,333
セグメント間の内部 売上高又は振替高	7,844	3,484	577	11,906	26	11,933	△11,933	—
計	74,600	34,247	4,834	113,682	584	114,266	△11,933	102,333
セグメント利益又は損 失(△)	1,414	706	26	2,146	△0	2,146	50	2,196

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内子会社の事業活動を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額50百万円には、セグメント間取引消去18百万円及び棚卸資産の調整額31百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	日本	アジア	欧米	計				
売上高								
外部顧客への売上高	71,631	29,322	3,455	104,408	609	105,018	—	105,018
セグメント間の内部 売上高又は振替高	9,250	4,330	936	14,517	18	14,536	△14,536	—
計	80,881	33,652	4,391	118,926	628	119,554	△14,536	105,018
セグメント利益又は損 失(△)	1,573	748	△57	2,264	48	2,313	30	2,344

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、国内子会社の事業活動を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額30百万円には、セグメント間取引消去24百万円及び棚卸資産の調整額5百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

### 3. 補足情報

#### (1) 仕入、受注及び販売の状況

##### ①商品仕入実績

当第3四半期連結累計期間の商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)	前年同期比 (%)
日本 (百万円)	66,720	112.5
アジア (百万円)	21,079	90.9
欧米 (百万円)	1,908	74.2
報告セグメント計 (百万円)	89,709	105.5
その他 (百万円)	437	112.8
合計 (百万円)	90,146	105.5

##### ②受注状況

当第3四半期連結累計期間の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (百万円)	前年同期比 (%)	受注残高 (百万円)	前年同期比 (%)
日本	76,904	124.4	36,087	115.5
アジア	28,293	94.3	11,630	88.0
欧米	3,625	76.7	2,065	84.7
報告セグメント計	108,823	112.7	49,783	106.1
その他	639	87.8	354	85.8
合計	109,463	112.5	50,138	105.9

##### ③販売実績

当第3四半期連結累計期間の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)	前年同期比 (%)
日本 (百万円)	71,631	107.3
アジア (百万円)	28,908	94.0
欧米 (百万円)	3,868	90.9
報告セグメント計 (百万円)	104,408	102.6
その他 (百万円)	609	109.2
合計 (百万円)	105,018	102.6

(注) セグメント間の取引については相殺消去しております。

## 独立監査人の四半期連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年1月30日

サンワテクノス株式会社  
取締役会 御中

井上監査法人  
東京都千代田区

指定社員 公認会計士 平松 正己  
業務執行社員

指定社員 公認会計士 吉松 博幸  
業務執行社員

### 監査人の結論

当監査法人は、四半期決算短信の「添付資料」に掲げられているサンワテクノス株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2025年10月1日から2025年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2025年4月1日から2025年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して四半期連結財務諸表を作成することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、株式会社東京証券取引所の四半期財務諸表等の作成基準第4条第1項及び我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表に関する会計基準（ただし、四半期財務諸表等の作成基準第4条第2項に定める記載の省略が適用されている。）に準拠して作成されていないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（四半期決算短信開示会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータ及びHTMLデータは期中レビューの対象には含まれていません。